

営業所通信⑤

別海営業所からの紹介： 『「これから」をちょっと変えてみる・噂のペレニアルライグラスを播いてみた！』

1. 新しい牧草知ってますか？

根釧地区は、最近まで「アルファルファ」が栽培限界地域と言われておりました。しかし、当社「ケレス」が発売されてから、地域でも盛んに栽培に向けた取り組みが行われており、今ではすっかり“サイレージの栄養を上げる牧草”として定着しております。

また最近では、新しいイネ科牧草として「ペレニアルライグラス」(当社品種は「フレンド」)があります。「ペレニアルライグラス」は、採草にも放牧にも利用でき、糖含量が高く嗜好性が良い牧草です。世界的にはチモシーよりも広く栽培・利用されております(欧州でのペレニアルライグラス利用状況は、『雪たねニュース北海道版3月号「ヨーロッパ酪農レポート」』をご参照ください)。しかし、ペレニアルライグラスはチモシーよりも越冬性が弱く冬枯れする場合がありますため、北海道の中でも特に土壤凍結の厳しい根釧地区では栽培が難しいと言われております。今回は、そのペレニアルライグラスを簡易播種機で追播した事例をご紹介します。

2. 滝本和男さん

中標津町東西竹の滝本和男さんは、奥さん息子さんと3人で経営をしております。飼養体系は50頭繋ぎでラップサイレージを給与しています。2番収穫後は放牧もしています。

滝本さんは、牛を健康に飼うため草地には「嗜好性・醗酵品質が悪くならないよう春に堆肥は散布しない。更新する時は、起こす前に必ず除草剤処理してイネ科雑草を減らす。」というこだわりを持っております。(起こした後の除草剤は、時期的になかなか厳しいそうです。)結果、ラップの醗酵品質と牛の調子は悪くはないのですが、草地のギシギシが多くなり選択性の除草剤をかけてもなかなか退治できないことが悩みでした。

平成23年冬に滝本さんから、「更新するにはまだ数年かかる圃場の、①雑草(ギシギシ他)を減らしたい、②牧草の嗜好性をもっと上げたい、③手間とお金をかけずになるべく簡単に作業をしたい」というご相談をうけました。弊社からの提案で、「2番牧草収穫後に、作溝型播種機(「シードマチック」)を利用してペレニアルライグラスを追播する。」ことにしました。

3. 新しいことを2つやってみる(シードマチック・ペレニアルライグラス追播)

平成24年9月8日、2番収穫後5haの圃場の半分(2.5ha)にシードマチックでペレを追播しました。

(播種量はペレニアルライグラス「フレンド」を20kg/ha)。圃場は、5年目でギシギシが多くなり他の雑草も増えてきたため、牛が喜んで食べない畑です。幸いなことに、滝本さんが所属する共同牧野組合がシードマチックを所有していたため、滝本さんの経費は「利用組合の機械使用料」と「種子代」だけで済みました。

【追播のポイント】

○時期：滝本さんは、弊社が推奨する「8月下旬～9月上旬までに追播」できるよう、例年より牧草収穫時期を早めました。追播のタイミングは、①春先(雪解けすぐ・連休前後)、②1番収穫後、③2番収穫後、と年に3回チャンスがありますが、一番のおすすめは「2番収穫後」です。これは、既存草や雑草との競合がないので追播した牧草の生育が良くなり、2番草収穫後の時期は土壤水分が安定しており、旱魃の影響も受けにくいからです。

○作業スピード：時速2～3kmでゆっくりと作業をしてもらいました。これは草地をしっかりとシードマチックのT字型オープナーで切って、種子を適正に落とすために大事です。(逆に、施行スピードが早いと種子が落ちずにせっかくの



写真1
追播は「ゆっくり」が
キレイにできる

写真2
切ったあとにペレニアルライグラスの種子が落ちていく



作業が無駄になります)

4. 畑の勉強会いいですね

平成24年10月上旬、近隣の農家さん・JA職員さんに当社から声をかけさせて頂き、滝本さんがペレニアルライグラスを追播した圃場で「畑の勉強会」を行いました。講師は弊社北海道研究農場の谷津主任にお願いし、ペレニアルライグラスの生育状況の確認と、ペレニアルライグラスという牧草についての説明をしてもらいました。この時期のペレニアルライグラスは既存のチモシーと比べると、まだまだ小さかったのですがしっかりと生えていることが確認されました。また、集まって頂いた皆さんはこの新しい牧草に期待が高く、熱心に谷津主任の話に耳を傾けておりました。今年の1番か2番収穫前には、地域にもっと広く声をかけさせて頂き「畑の勉強会 第2弾」を開きたいと考えております。



写真3 ペレニアルライグラスの様子 (赤点線内 光沢のある細身の草)

5. 心配だった春

平成25年5月中旬 圃場を確認しました。今年中標津地区は雪の被害あり、滝本さんの圃場のペレニアルライグラスも雪枯れが心配されましたが、追播したペレニアルライグラスはしっかりと生き残っておりこれから生育が楽しみです



写真4 ちゃんと生えています

写真5 これから大きくなります



す。

6. 注意したいポイント

最後にペレニアルライグラスの追播・栽培上の注意点を申し上げたいと思います。まず、今回で言えば「ギシギシ対策」のみを狙ったペレニアルライグラスの追播は厳しいと思われます(滝本さんにもご理解を頂いております)。また、リードカナリーグラスが多い畑にも追播は難しいです。また、ペレニアルライグラスは良い牧草ですが冒頭に述べました通り「冬枯れ」する心配がありますので、万が一、ペレニアルライグラスが全面的に「冬枯れ」した場合、その草地が使えなくなることがあります。例えば、昨年ペレニアルライグラスを入れた草地が春先に白いパッチ(枯れたあと)が2~3割ならまだ回復の見込みもありますが、半分以上となると「アレレ?こんなはずでは無かったのに…」という結果になってしまいます。



写真6 ペレニアルライグラスが多く入った圃場(H24)

写真7 枯れた草の下に生えている場合も



※この圃場は幸いその後回復しました。H25.5現在チモシーとペレニアルライグラス両方順調に生えています。

7. 「これから」をちょっと変えてみる

地域でのペレニアルライグラスの取り組みはまだまだ始まったばかりです。現場では、栽培に対して心配や不安の声がまだありますが、今回の滝本さんのように「ペレニアルライグラスを播いて少しでも草地(=酪農経営)を変えていければ」と、試験的に取り組んで頂けたらと思います。私たちもこの牧草は農家さんの助けになると考えております。もし、ご興味がある方はお近くの雪印種苗営業所までお問い合わせください。また、今後の滝本さん圃場のペレニアルライグラスの生育と、地域のペレニアルライグラス栽培に対する取り組みにご期待ください。

(別海営業所 村上今日)